平成１５年度資源評価票（ダイジェスト版）

標準和名 サメガレイ

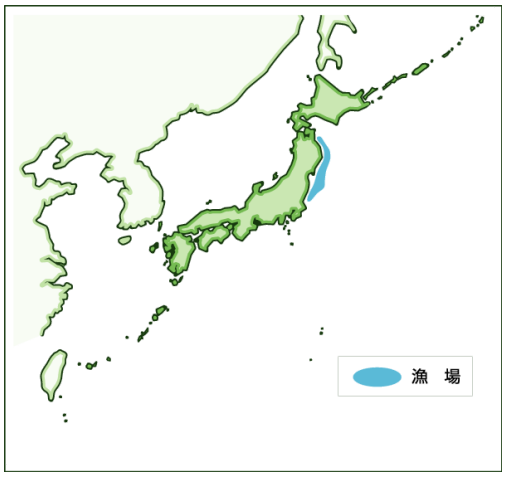
学名　*Clidoderma asperrimum*

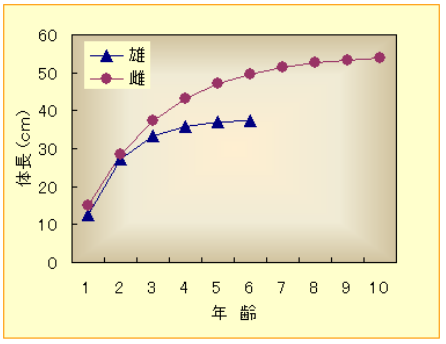
系群名　太平洋北部

担当水研 東北区水産研究所

生物学的特徴

寿命：　雄9歳、雌13歳
成熟開始年齢：　雄は2歳（一部）、3歳（完全）、雌は3歳（一部）、4歳（完全）
産卵期・産卵場：　1～2月、太平洋北部の水深600～900mの深海域
索餌期・索餌場：　周年
食性：　クモヒトデ類
捕食者：　不明



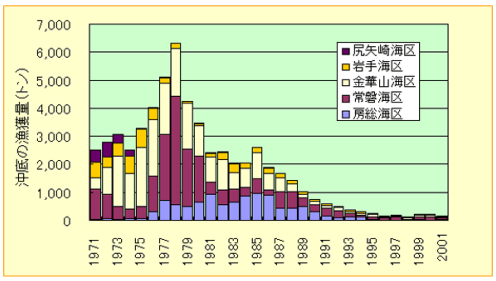


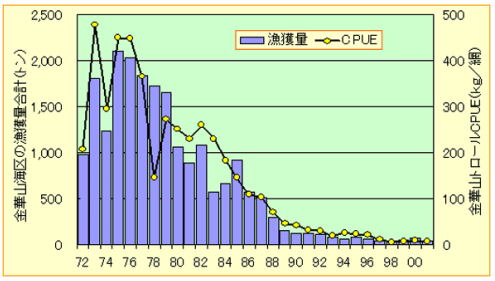
漁業の特徴

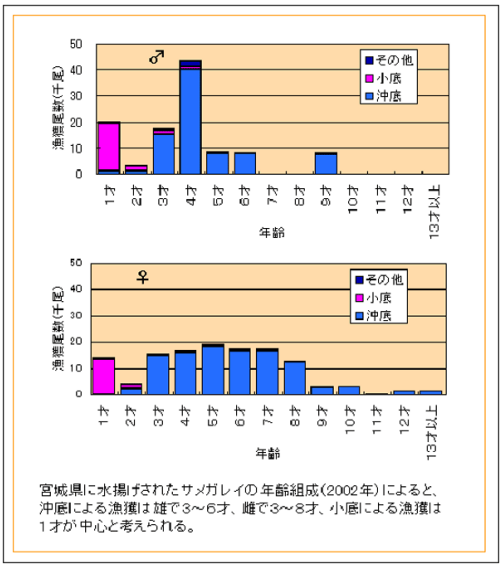
太平洋北部では、サメガレイは主に沖合底びき網漁業により漁獲されており、他の漁業種類による漁獲量は極めて少ない。沖合底びき網漁業の海区別漁獲量をみると、金華山・常磐海区（宮城～福島県沖合）での漁獲量が大部分を占めている。また、サメガレイの漁獲は産卵期および産卵後に集中しており、産卵親魚に対する漁獲圧が高いと推測されている。

漁獲の動向

沖合底びき網漁業によるサメガレイの漁獲量は、1978年の6,300トンをピークに減少を続け、1998年には最低水準の108トンを記録した。その後、やや増加したものの、2001年の漁獲量は160トンであり、2002年には全漁業種を含めた漁獲量は297トン（暫定値）に留まっている。



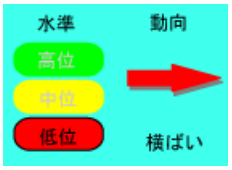




資源評価法

平成14年度から資源評価対象種になったため、資源量を把握するために必要な資料は得られていない。太平洋北部ではトロール調査により底魚類の資源量を推定しているが、本調査ではサメガレイの採集個体数は極めて少なく、資源量を推定することは不可能な状況にある。今後、主要港の漁獲実態を把握するとともに、生物特性の解明を進める必要がある。そのため、漁獲量およびCPUEの動向を用いて資源評価を行った。

資源状態



漁獲量の長期的な動向をみると、サメガレイの資源状態が急激に悪化し、現在の資源状態が低水準であることは研究者のみならず、漁業者も経験的に認識している。また、サメガレイは沖合底びき網漁業により大部分が漁獲されており、沖合底びき網漁業のCPUEはサメガレイの資源動向を長期的に判断できる指標である。小海区別の沖合底びき網漁業CPUEの変化をみると、サメガレイの主漁場である金華山・常磐海区では1998年に比べて2001年にはやや高いCPUEを示しているが、全ての海区で長期的には低下傾向、短期的には横ばい傾向を示している。サメガレイの漁獲量は極めて少なく、沖合底びき網漁業のCPUEは低い値で推移していることから、資源量は低い水準にあり、資源動向は横ばい傾向と考えられる。

管理方策

漁獲努力量の推移から、サメガレイに対する漁獲圧はいまだ高いと考えられる。漁獲量およびCPUEの推移から、サメガレイの資源水準は低く、資源動向は横ばいと考えられる。そのため、現状よりも徐々に資源量を増加させることを管理目標とし、沖合底びき網漁業のCPUEの変化率を用いてABCを算定した。 サメガレイの場合、資源が低位、横ばい傾向にあり、変化率から求めたγを使うと資源は維持できるものの資源の回復は難しい。サメガレイでは回復措置が必要と判断されるので、漁獲量を抑えるために0.8を乗じてγを求め、このγを現在の漁獲量に乗じてABCを算定した。

	2004年ABC	管理基準	F値	漁獲割合

ＡＢＣlimit	100トン0.53Ccurrent	-	-
ＡＢＣtarget	80トン　0.8ABClimit	-	-

ABCは10トン未満を四捨五入した値

資源評価のまとめ

- 漁獲量は少なく、CPUEは横ばいで推移
- 現状の漁獲水準では資源の回復は見込めない
- 漁獲が産卵親魚に集中している

資源管理方策のまとめ

- 漁獲が集中する産卵期前後の漁獲規制が必要

資源評価は毎年更新されます。